

平成 25 年度 第 1 回東北森林管理局国有林材供給調整検討委員会 議事概要

1 日時、場所

平成 25 年 7 月 23 日（火）13:00～14:50 東北森林管理局第 3 会議室

2 出席者

【委員】

黒瀧委員、向中野委員、澤田委員、高橋委員、庄子委員、飯島委員、菊地委員、太田委員

【東北森林管理局】

森林整備部長、資源活用課長、企画官（供給戦略担当）、企画官（木材需給対策担当）

3 議事概要

【検討委員会の検討結果】

○ 現状では国有林材の供給調整を行う必要はない。

【主な意見】

（東日本大震災関係）

○ 国産材の流通等にとってここ数年で大きな影響を与えているのは東日本大震災と為替レート。

○ 今年と昨年との新築住宅着工戸数を比較すると、東北地方の伸びは全国より高いということだが、実感はない。需要はあるが大工等の職人不足で工期の遅れ等がある。

○ 復興需要が感じられない。震災で沿岸部は被災したが山側はほとんど影響がなく、材は供給過剰。合板やチップでは受け入れ調整もあり、以前より買い手市場となった。

○ 東北でも住宅建築は大手ハウスメーカーが主体。地元工務店は年間数棟しか受注できていない。

○ 阪神・淡路大震災では神戸の住宅着工数は震災後 3 年間 2.5 倍だったが、復興用には輸入材がかなり供給されているようであり、周辺地域の国産製材出荷量はむしろ減少気味であった。

○ 復興需要等で国産材の需要は増加しているが、求められているのは乾燥材。しかしながら、乾燥施設が足りず、応えきれていない。

（国産材需給等全般）

○ 外材は価格が安く、品質は安定している。国産材も伸びてきているが油断するとまた減少する。

○ ここ数年、市場売りの取扱量は減少し、工場直送が増えている。

○ ホワイトウッド集成管柱の価格は上がってきているが、国産材は上がっていない。ホワイトウッドから国産材へというのが県の方針であり、業界としても取り組んできているが、国産材には価格決定権が無いことが課題。

○ 資源の有効利用の観点からも県内に集成材工場、合板工場、バイオマス発電等が一般材から低質材までの全てが利用できる施設が必要。

○ 各県で県産材の利用拡大に取り組んでいるが、厳密に県内産にこだわると非効率な面もあるのでもう少し広い視野で考えるべき。

○ 国有林には安定供給を期待している。供給調整は余程重大な事態が生じた場合のみとすべきであり、民有林から材が出ない時は国有林から供給すべき。